

学カレベルの低いクラスにおける授業の工夫

Ways to Motivate Underachieving Students

宮田 学(名古屋市立大学)

1. はじめに

昨年4月より、私立の保育系短大の1年生に、週1回英語を教えることになった。この短大では入試科目に英語がないため、英語学力の低い学生が多いと予想された。また、英語学習に対する動機づけに欠けるのではないかと思われた。そこで、学生たちが英語に意欲を示し、楽しく有意義に学習できるような授業を工夫し、実践してみた。

2. 何をどのように工夫したか？

授業で用いたテキストは、森田和子著『保育の英語』(三修社)である。これは、保育園での1年にわたる生活場面を素材に編まれたもので、学生たちにとって親しみやすい内容であると同時に、比較的易しいレベルの英文や練習問題で構成されていると判断した。

全20課のうち前半の10課を前期、残りの10課を後期で学習するという、ゆとりのある授業計画を立て、宮田なりに新しい方式を考えて授業を実施した。大学における従来の平均的な授業と比較してその特色をまとめてみると、だいたい以下のようなになるであろう。

学習活動	従来の方式	新しい方式
(A) 予復習	・予習が前提となる	・授業中に取り組む/宿題がある
(B) 語彙	・単語を調べてあることが前提	・授業にてプリントによる学習を行う
(C) 解釈	・1文1文を分析、解釈、和訳	・概要把握/重点方式(一部和訳)
(D) 文法	・必要に応じて解説がある	・文法の基本を計画的に学習
(E) 音声面	・テープを聞く程度	・発音練習や書き取りを行う

3. 最初の授業

4月最初の授業は、その後の授業運営にとってきわめて重要な位置を占める。英語の授業であることを強く印象づけること、学生たちの英語力を把握すること、その後の学習につながるようなことをねらって、次のような授業を試みた。

(1) Introduction in English ; 日本語で要点を確認

(2) 「音のつながりと変化」の学習

(3) 聞き取りテスト(空所の単語を書き取るテスト: 20点満点)を実施

授業は、まず英語で始まる。ときどき、右手もしくは左手を挙げるように指示が出される。最初は戸惑いぎみに手を挙げるが、教師の自己紹介、自分の居住地、年齢あてクイズと続くうちに、笑い声とともに手が挙がるようになる。授業の概要を説明し、毎回用いるテープレコーダーの係2人が決まったところで、突然、日本語に切り替わる。

次に自然に話される英語を聞き取るための学習を行ってから、「聞き取りテスト」を実施して、授業を終える。なお、同一のテストを前期最後の授業でも実施した。その結果、平均点が7.39点から8.43点へと上昇した。

9月5日(金) 実践報告1 第6室(522)

4. 前期の授業

授業手順は、以下のようなものであった。

(1) 前課の復習

i. 本文の Cloze Dictation ii. 基礎英文法の学習 iii. 宿題の答合わせ

(2) 本課の本文の学習

i. 語彙の学習 ii. 本文の概要把握 iii. Ex. A iv. 和訳箇所の指定(宿題)

(3) "Useful Expressions" の学習

i. 解説 ii. 音読練習 iii. 指定された表現の暗唱練習

(4) Ex. B, C の確認(宿題)

授業はまず、前時の本文を利用した、空所を埋める書き取りの小テストから始まる。毎回違った基準で書き取る単語が選ばれ、文法学習のための材料となる。品詞についての正しい理解や、英文構造の理解など、英文法の基礎を復習することにねらいがある。

この授業では予習を前提としていないため、授業中に理解するための工夫が必要であるが、その最大のポイントは語彙指導である。そこで、指導に必要な単語や表現を選び出し、英英辞典で一番適切かつわかりやすい定義を探す。これをプリントにまとめて、本文の学習に先だて、語彙の学習を行うことにした。授業では、英語の定義を理解した後で、適切な日本語相当語を与えた。

本文の学習では、まず挿絵に関する質問を日本語で与えて、大ざっぱに本文の内容を把握させる。その後で、さらに追加質問をして、本文全体の理解を終える。全文和訳しない代わりに、毎回2つの英文が指定され、日本語訳を考えてくることが宿題となる。

予習を前提としていないので、教師の質問やテキストの練習問題に答えるための時間を十分に保証してやる必要がある。このため、練習問題の一部を宿題に回すことになる。

5. 後期の授業

前期の最終授業にて、授業アンケートを実施した。授業を受けた学生(2クラス67名のうち63名が回答)の94%近くが、授業が「(とても)よかった」と評価してくれた。だが、テキストが「難しい」と感じたり、「本文の和訳が欲しい」という希望のあることもわかった。そこで、後期の授業では、2つの変更を加えることにした。それ以外は、前期の手順を基本にして授業を展開した。

1つは、語彙の学習を2回行えるように工夫したことである。また、語彙プリントに、日本語の意味を推測してあてる「クイズコーナー」を設けてみた。もう1つは、担当する課の本文を3~4人で共同して翻訳するというグループ活動を取り入れたことである。グループ活動の結果は清書原稿にして提出させ、教師が添削した全グループの本文訳を印刷し、定期試験直前の最後の授業にて配布した。

6. 実践を終えて

最後の授業で、2つの変更点についてアンケート調査したところ、語彙の学習については91%、全文和訳のグループ活動については85%の学生が、「(とても)よかった」と回答した。大会当日は、授業展開の詳細やアンケート結果を紹介しながら、学力や意欲の低下に対処するための方策を参会の先生方と話し合う予定である。